



まちづくりコーディネーター通信

令和4年9月発行（第3号）

今年度上半期の活動計画を振り返って

目次：

今年度上半期の活動計画を振り返って	1
コーディネーター全体の動き	1
コーディネーター活動あれこれ	2
▶大屋 コーディネーター	
コーディネーター活動あれこれ	3
▶佐々木 コーディネーター	
コーディネーター活動あれこれ	4
▶毛利 コーディネーター	
お知らせ	4
お問い合わせ先	4

まちづくりコーディネーターが活動をはじめて、2年目の折り返しを迎えます。

活動計画に沿って、全員で協力しながら協働のまちづくりの推進への取り組みを支援しています。（計画詳細はまちづくりコーディネーター通信第2号をご覧ください。）

- 浜田地域(浜田地区／石見地区)内まちづくり推進委員会設立プロジェクト
 - ・4～8月の間で、6か所計30回以上の会議参加や話し合いを重ねています。

【今後の予定】設立に向けた会議参加継続

新たに未設立地区3か所へのヒアリング追加計画あり

- まちづくり活動推進プロジェクト

- ・地区まちづくり推進委員会を対象にニーズ調査アンケートの実施(4～5月)

【今後の予定】8月以降～分析・詳細ヒアリング、必要な支援コーディネーター年度末～成果分析(アンケート調査)

- ・適宜通常支援継続中

- まちづくりコーディネーター活動発信プロジェクト

- ・Facebook及びInstagram開設、活動情報の随時発信。

【今後の予定】各SNSフォロワー目標500人、活動事例の随時発信
コーディネーター通信発行(次号12月・3月予定)

コーディネーター 全体の動き

- 市長との意見交換(4月15日)
- 各地域での副市長との意見交換会(4月)
- 市議会(協働のまちづくり推進特別委員会)との意見交換(7月11日)
- 各地域まちづくりセンターとの意見交換会(6～7月)
- 【研修】教育魅力化勉強会／人権研修／ファシリテーター養成講座／大人もこえるひろがる「ふるさと活動」フォーラム2022／中山間地域総論 など
- コーディネーター定例ミーティング(毎週月曜日)
- 社会教育士の集い(仮) など

コーディネーター活動あれこれ

「住縁」を広げる 食用ひまわり栽培

文) 大屋マサ子



旭地域の木田まち自治会の取り組みをご紹介します。

木田地区の概要

人口241人、124世帯(8月1日現在)

観光資源: 旭温泉、赤梨

特記事項: 木田自治会と木田地区まちづくり推進委員会が統合し、事務局を木田公民館(現: 木田まちづくりセンター)が担う、新たなまちづくり組織「木田まち自治会」が発足。

食用ひまわり栽培の取組【木田美景観事業】

平成30年度に、まちづくり総合交付金課題解決特別事業を活用し、耕作放棄地対策として食用ひまわり栽培を事業化し、公民館高齢者活動「お元気会」で取り組みをスタートされました。はじめは小規模でしたが、徐々に活動を広げ、今では少量ながらひまわり油の搾油もできてきているそうです。

今年も 8月に美しい花を一面に咲かせ、元耕作放棄地とは思えません。

「お元気会」の名前には、“関わる人だれもが元気に”との思いが込められており、住むことを“縁”として考え、住むなら互いに元気で、楽しく、助け合ってより良く住み合おう!との自治会とまちづくり推進委員会の統合の含意も伝わります。

この取組の大きな特徴は、木田まち自治会の活動の休耕田対策を、高齢者活動(お元気会)として取り入れ、それをまちづくりセンターが支えるという三者の連携プレーによって成り立っており、その連携はまるでひまわり油の滑らかさのようです。

コーディネーターとしての関わり

これまで、私自身も地域資源の活用や商品化などに取り組んできた経験があり、取り組みの段階や時期によって、課題や思いも様々だったことを思い出します。

コーディネーターとしても、それぞれの地域が描く未来を共に手繰り寄せられる地域づくりのインフラの一部となり、一歩ずつともに進み続けたいと思います。



満開のひまわり



お元気会のみなさん



ひまわり油の搾油



エコたわしの制作



種まきの様子



はじめに

令和3年4月にまちづくりコーディネーターの職を拝命して、旧浜田市内の委員会起ち上げを主職務に、町内会役員の方々と定期的に意見交換を続け、1年半が経過しました。組織を起ち上げると言っても強引に推し進めるわけではなく、町内の直面する問題や課題を酌み解き、解決策を考えて提案する作業の繰り返しであり、結果として組織化出来る事を期待しながら、まちのみなさんとの意見交換を重ねています。

各地区の状況

- 黒川町では、令和3年7月に「黒川町のまちづくりを考える会」を開催し、令和4年3月からは「黒川まちづくり設立準備会」に移行されています。現在もまちの皆さんと一緒に協議を継続中ですが、この過程で6月には「藻塩づくり体験」事業の開催に至り、事業作りの支援として参加しました。
- 港町では、令和3度から約15回の意見交換会を重ねています。住民全員に実施された防災アンケートの作成・集約を支援し、広報紙『みなと町(みんなとまち)だより』が発行されました。また、令和4年2月に防災イベントを原井小学校で開催する計画を進めてきましたが、新型コロナウイルスの蔓延により延期となり、令和4年11月の開催に向けて現在協議・調整を支援しています。
- まちづくり設立会議に参加いただくため、活動停止中のある町内会の再生支援として、町内住民宅約50戸を戸別訪問しました。5回の住民集会を経て、規約作成や新役員の選出など、町内会の再構築を支援しています。
- 原井町・笠柄町では、令和3年4月からまちづくり組織設立に向けた意見交換会を重ね、防災アンケートによる意識調査をされましたが、雲雀丘小学校統廃合の件で同年12月以降一旦中断しました。令和4年度に入り保護者の方々が統合に概ね同意されたため、校舎や土地を地域の活動の拠点にしていくことを目指し、地域活動の支援を進めています。

コーディネーターとしての関わり

市の中心部にあっても少子高齢化は進んでおり、高齢化率60%前後の町内もあります。人間関係の希薄化への危機感は確実に内在しており、ひとつの町内会だけでは解決策をなかなか見いだせない中で、役員等が集まって言葉のキャッチボールを重ねると、数々の『気づき』が顕在化します。

会議や集会への参加、町内会長さんへの訪問・ヒアリングを実施しながら、細かなまちの実態把握や方向性の共有について、在籍する6名のコーディネーターをはじめ、浜田・石見まちづくりセンター職員、関係各課の職員、社会福祉協議会、市議会議員等関係する皆さんとタッグを組んで活動を進めています。

市民の皆さん一人一人の意識が、「誰かにやってもらう」⇒「自分でできることは自分でやる」に変わり、そこから更に「独りではできない」⇒「一緒にやる」、「口も出す(意見する)が手も出す(行動する)」など、自発的行動に変化し、幼児から高齢者まで巻き込んで繋がっていく、そんな町内へ変貌していく途上の支援活動を今後も続けていきます。



黒川まちづくり設立準備会事業「藻塩づくり体験」



金城全体で取り組んでいる「ふるさと学習会」

7月14日(木)金城中学校3年生と教員を対象に、ふるさと学習会in美又が開催され、まちづくりコーディネーターとして参加しました。

中学1～2年生の時は、金城の各まちづくりセンターで行われるふるさと学習会で地域の人々の仕事や金城の歴史等を学び、3年になれば美又の魅力を学びます。温泉街では、美又温泉について旅館組合の方や金城支所の職員に、各々の立場からとても興味深いお話を聞かせていただきました。

民具伝承館では、農具・林具・生活用具などが展示されていますが、生徒たちはそれらに触ったり、動かしたり、身につけたりしてとても楽しんでいました。中学生と地域の人がグループに分かれて美又について話し合い、「今度家族で来たい」「温泉に入りたい」「美又の産業は何ですか」など一緒に意見を出し合いました。

まちづくりコーディネーターとしての関わり

このような学習で地域の人々と交流をし、ふるさとを知り愛着がより深くなるお手伝いができることは、コーディネーターとしてもとても嬉しく思います。民具伝承館は気軽に見学できます。子どもたちには初めて見るものが多く、大人には懐かしい民具がたくさんあります。いつでもお声がけください！



むしろあみ機の説明



温泉街見学



炭俵あみ機の実演

※お知らせ※

このたび、一身上の都合により退職することとなりました。短い期間でしたが、皆様と一緒にまちづくりに関わったことは、大きな財産となりました。コーディネーターの職を退いても、地域の住民として、関わっていけたらと思います。たいへんお世話になりました。ありがとうございました。



まちづくりコーディネーター 本多 瑠美子

SNSフォローよろしくお願ひします！
まちづくり活動に、
ぜひお役立てください！

Facebook



Instagram



浜田市
地域政策部
まちづくり社会教育課

【電話】 0855-25-9204

0855-25-9007(CN執務室)

【FAX】 0855-23-1866

【メール】 manabi@city.hamada.lg.jp